

5・12～14 沖縄へ！

全学連（斎藤郁真委員長）書記局通信

2012年4月26日
No.22

Tel 050-3036-6464
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

4・19学生集会での斎藤委員長提起！

◆本日の行動が成し遂げたもの

本日の闘いは大成功でした。その上で許してはならないのは、今回の不当逮捕です。ただちに学友A君を奪還しよう。

提起したいことは、「原発をとめ、社会を変えるため、学生は立ち上がろう！ 5月沖縄闘争へ結集し、全国大学に学生自治会を建設しよう！」です。

はじめに、今日の行動の総括です。一つは、全国学生が集まってデモをし、文科省行動をやったことは原発再稼働に痛撃を与えたと思います。福島のお母さんたちの経産省包囲が続けられ、「3・11」から一年の福島県民大集会に16000人が結集した。それと一体の闘いでした。二つに、何よりも重要なことは、ついに全国学生の力で法大から新たな学内決起を生み出したことです。どんなに弾圧が強くても、学生は仲間のために立ち上がる。絶対にこの現実はおかしいと立ち上がる。今日それが証明された。三つに、闘う福島大生の登場です。昨年10月21日の福大キャンパス集会で福島大生とつながり、10月28日には法大―文科省包囲行動に福島大生の参加を勝ちとった。それから約半年。さらに闘う福大生の数は増えた。全学連と文化連盟が必死になって作りあげてきた内容、本気で人生かけて決起すること、学生の人格が福島の学生の根底的な怒りと結合し始めたということです。さらに闘いを積み重ね、原発をなくし、社会のあり方を変える闘いをやろう。学生の力で時代を切り開こう！

◆全国大学に学生自治会をつくろう！

学問すら金儲けの道具にする市場原理主義。この新自由主義の時代に、国家と原子力ムラを相手に、大学で反原発の行動を闘う。その激しさを法大と福大の現実が示しています。しかしそれは、相手が強いのではない。立ちあがることの「厳しさ」は、自然現象ではない。「学費・就活・奨学金」の三重苦の中で、学生の未来も市場価値で決められる。学生の怒りや不安はどんどん高まるにもかかわらず、徹底的な弾圧が学生に行われている。福島大では原発反対のビラを貼っただけで、教授に呼び出される。これは支配者たちの脆弱さ、学生が本気で立ち上がったら打倒されるという恐怖心ゆえの暴力的な方法です。

だからこそ、「しがらみ」をのりこえて、たった一人の学生が決起した時に、それは千万の学生に衝撃を与える。未来をかけて闘う学生の団結体をキャンパスの中につくり、一人の決起を守り発展させる。そういう組織が必要です。それが学生自治会です。カネとモノに支配されてきた「常識」を変えて、団結した人間の可能性を示そう。エジプト、アメリカ、ギリシャ、韓国、中国、…、世界の闘いの最先頭に青年・学生が立っています。学生の可能性に敵が恐怖しているからこそ、大学で激しい弾圧を加える。ぜひ私たち全学連とともに立ち上がろう。

【1】新しい社会が始まっている

◆原発への怒り、高まる行動

新しい社会が始まっています。

原発への高まる怒りは、もはや一部の決起ではなく日本の情勢を端的に示す象徴です。「3・11」から一年、多くの人たちが原子力ムラに怒りを叩きつけてきました。それに対し、抗議する人間は逮捕され、東電や政府は絶対に逮捕されない構図が鮮明になった。3・11福島県民大集会は、その怒りの頂点にありました。福島の人たちが、すさまじい力と決意を持って立ち上がった。「人の命も守れないのに、電力とか経済とか言っている場合ではないはずです」（高校生）、「核と人類は共存できない」（農民）、「『がんばろう日本』ではなく『変えよう日本』」（農民）、「お金を大事にする人たちと命を大事にする人たちとの闘い」（佐藤幸子さん）。

この社会はおかしいんだって福島は怒っている。これは、「カネ儲けができる限りで人間が生きていける」資本主義社会への徹底的な怒りです。それゆえに、反原発闘争は人類史を変える可能性を持っています。だからこそ、推進派は焦っています。「原発の再稼働は社会的弱者のため」（枝野経産相）、「（全原発の停止は）日本国民の集団的自殺」（仙石・民主党政調会長代行）。ここに共通しているのは、「カネ儲けができる限りで人間が生きていける」この社会を前提としていることです。「フクシマの怒り」と連帯し闘うことが、再稼働を阻止し、全原発の廃炉をかちとる力をつくり出します。

◆世界でも同じ闘いが巻き起こっている

アメリカのオキュパイ（占拠）運動のスローガン「われわれは99%だ」…、これも「カネ儲けができる限りで人間が生きていける」資本主義社会への怒りの表現です。ギリシャをはじめヨーロッパやエジプトで巻き起こる闘いも同じです。「国益のため」の一方で行われているのは、「企業の競争力をつけなくてはいけない」「賃金カット・リストラ・社会保障切り捨て・税金アップ」。日本の消費増税もそうだし、企業が生き残るためのTPP。これに対して多くの人たちが反対の声をあげています。

大恐慌だからこそ、資本と国家の攻撃の激しさは増します。それに対する闘いは全世界的共通性を持ち、私たちは共通の敵と闘っている。民族も人種も国境も性別もすべてのりこえていく。すべての人々の団結で運営される社会がその中に生まれて



いる。世界は「1 %」と「99%」の二つに分裂しています。私たち学生はどちらを選ぶのか。私は絶対に「99%」の立場の側に立つべきだろうと思います。

◆反原発闘争をめぐる路線分岐

福島県民大集会のストレートな怒りの一方で、「脱原発」を掲げて原子力ムラに屈服する清水修二・元福島大副学長がいます。日本原子力研究開発機構（JAEA）や放射線医学総合研究所（放医研）などと福島大学は提携し、それに反対する学生を学内で弾圧している。資本を呼び込まないと「復興」できない、だから福大を「エネルギー研究・開発拠点」「放射線医療研究・開発拠点」に、だから福島県民は避難してはならないし実験材料として被曝しなければならない、ということです。しかし、この道を私たちは拒否すべきです。反原発運動の中のこの路線分岐をあいまいにはできない。清水修二のようなイデオロギーをのりこえていかなければなりません。

【2】キャンパスから闘いを！

◆核心はキャンパスで団結をつくり、大学の決定権を奪い返すこと

新自由主義とは、戦後のあり方をぶち壊すことです。人間形成そのものを変える。人間が団結して労働する考え方を奪う。新自由主義は、アメリカではレーガン、イギリスではサッチャー、日本でも中曽根政権による国鉄分割・民営化によって日本最強の労働運動＝国鉄労働運動がつぶされる。

キャンパスでも同じです。新自由主義的な「大学改革」は、「国立大学法人化」と「文部省と科学技術庁の統合」です。その前提として学生から力を奪う。強烈な学生運動つぶしをやりました。法大でも学生会館が04年に破壊される。だからこそ私たち学生の課題は、キャンパスで団結を復権し、大学の決定権を資本家と国家から奪い返すことです。今の学生の苦しみと向きあい、その学生が「こういうふうに生きてみたい」と思える人格に私たち一人ひとりになる。その闘いの中から、キャンパスに学生の団結体として学生自治会が甦る。それが「大学から原発をとめる」ことです。

◆06年以降の法大闘争の地平

私たちは一度つぶされた団結を復権するのではなく、「なぜこんなことになったのか」を見据え、もっと強い団結と路線を打ちたてていかなければなりません。重要なのが、法大闘争の地平です。法大闘争は、「06年3・14大弾圧」に向き合い、これと徹底的に闘い抜くことで勝負してきた。その核心は、国鉄分割・民営化に対して唯一ストライキで闘い、団結を今も守り抜いている動労千葉労働運動に学んだことです。学生が本来持つ人間性と可能性を徹底的に引き出して闘う。「既得権」なんかにとらわれず、学生の団結と闘いこそが権利をかちとっていくし、法律や仕組みをいくらつくったって、それを実際に行う人が腐敗していたら終わりなんだ、と。人間自身の団結で勝ち抜いていく、そういう結論に達したのが法大闘争です。「一人の仲間も見捨てない！ 大学の暴挙を絶対に許さない！ 教育の民営化粉碎！」、これが法大闘争のスローガンです。

福島大学が反原発闘争の最大レベルの焦点になっているからこそ、激しい学内弾圧が起きている。敵が強いのではなく、「フクシマの怒り」を説得できないから暴力的に対応しているにすぎません。闘う学生が団結を固めて、不屈に活動すれば必ず

道は切り開かれます。

この内容は、すべての大学の闘いで問われます。京大の闘いの前進は法大闘争の地平で準備され、京大の地平を法大で取り入れ、全学連としてすべての教訓を共有化し、絶対に今の大学と社会を変える。そういう闘いを全体でつくっていこう。

【3】5月沖縄闘争へ！

◆侵略戦争策動の高まり

今、侵略戦争策動が高まり、市場・資源をめぐる戦争衝動が噴出しています。北朝鮮の「衛星」＝ミサイル発射を口実にして、日米が北朝鮮・中国侵略戦争を狙っています。アメリカは「新軍事戦略」を発表して、「エア・シーバトル構想」で中国を包囲する。今も中国近海では「フォール・イーグル」という米韓合同軍事演習が20万人の規模で行われ続けています。一体どっちが侵略行為をやっているのか！ それに呼応して、日本も今軍事国家化の政策を激しく進めています。PAC3を宮古島・石垣島に配備して、石垣島では実弾を装備した自衛隊が駐屯している。「北朝鮮の脅威」を煽って沖縄闘争と反戦闘争を圧殺し、辺野古新基地建設を推進しようとしている。

◆日米安保を粉砕しよう！

戦後67年、沖縄はいつも「国益」のために切り捨てられ続けてきました。この国が福島を切り捨てるのは当然です。原発とこの社会を許せないからこそ、沖縄闘争を絶対に勝利させよう。

そして、「原発＝原爆」です。野田首相は「安全保障のために原発政策を進める」と言い、原発は「核の平和利用」ではなく核武装の隠れ蓑ということも明らかになった。核も原発もなくするためには、核と戦争を必要とする資本主義そのものを粉砕していく闘いに学生が決起することが必要です。日米安保の最大実体である沖縄の現実をひっくり返すそう。

◆沖縄の学生とつながろう！

沖縄の怒りは高まっています。辺野古への新基地建設は16年間阻止され続けてきました。原発も国策も、私たちが団結して怒りを爆発させれば、絶対に粉砕できる。そして、ぜひ沖縄の学生とつながろう。闘う学生運動を沖縄につくり出す。全国学生の結集で沖縄の学生の決起を引き出す。今日から現地行動隊を増員して、沖縄闘争で勝負をかけます。

◆方針の確認

- ①キャンパスから反原発闘争を巻き起こそう。稼働原発がゼロになる5・5集会(東京・芝公園)と7月16日の10万人集会(代々木公園)が重要です。
- ②6月10日、国鉄大集会に集まろう。
- ③6月に福島大学で全国集会をやります。
- ④7月は京都大学闘争です。ここで絶対に学生自治会権力をうち立てる。
- ⑤そして8・6ヒロシマー8・9ナガサキへ。
- ⑥法大闘争を発展させよう。絶対に負けられない闘いです。。
- ⑦9月に全学連大会を開催します。新たに仲間を増やし、大会に集まろう。
- ⑧最後に、全国大学に学生自治会を建設しよう。これが今日の結論です。私たち学生がいかなる選択をするかが、次の社会のあり方を決めます。反原発闘争の大衆的な大爆発をかちとり、学生の力で新たな社会を切り開こう！ 全学連とともに立ち上がろう！ <了>